（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぱれっと			
○保護者評価実施期間	2025（R7）年　3月　3日	～	2025（R7）年　3月　28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	11	（回答者数）	11
○従業者評価実施期間	2025（R7）年　3月　3日	～	2025年　3月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025（R7）年　5月　1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が安定していることで、療育参観や親子レクリエーション等の活動が定期的に開催できるようになってきています。療育参観(月1回)で保護者が継続的に子どもの療育の様子を見学できる機会を提供しています。また、親子レクリエーション(年2回)では親子で楽しみながら交流を深める場として機能しています。	朝のミーティングや月に一回の職員会議にて、職員間の意見交換や情報共有を行っているため、子どもたちの普段の様子や統一した療育が可能なことで、より色々な行事や参観日が設定できるようになっている。	地域住民や相談支援員を積極的に招き、地域とのつながりを深めることで、より開かれた施設づくりを目指している。この取り組みにより、利用者だけでなく地域全体が支え合える環境を整え、誰もが気軽に関わりを持てる場を創出していく。
2	地域の児童センターや公民館などの施設を積極的に活用している。 このような取り組みにより、子どもたちや地域住民がさまざまな活動に参加できる機会が広がり、地域とのつながりが深まっている。	土曜日や長期休み期間を利用して、定期的に交流を行っている。児童センターの職員や学童の児童とも顔や名前を覚えてもらったりと交流を深めることができている。継続して行っていきたい。	職員同士で定期的に振り返りを行い、交流の成果を共有しながら、より良い関わり方を模索するとともに、保護者や地域の方々とも連携を深め、活動の幅を広げていく。
3	避難訓練も全職員が担当し、災害が発生したあらゆる想定を普段から話し合う機会が増えている。	全職員が担当することで組織全体として防災意識が高まり、責任感を持って訓練に取り組むとともに、緊急時の動きをスムーズにするために職員の役割を事前に決め、さまざまな災害を想定した訓練を実施し、異なる状況での対応力を磨いている。	職場内だけでなく地域の施設や避難所を活用し、リアルな状況での対応力を高める訓練を実施するとともに、職員だけでなく利用者や地域住民と連携した避難誘導のシミュレーションを行い、災害発生時にはお互いに助け合いながら声を掛け合える環境を築いていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全職員が保護者への助言を行える体制が整っておらず、特定の職員が助言を担っている状況となっている。	新卒職員や、療育経験がまだ浅い職員が多く、十分な専門知識や実践的な対応力の習得が求められている。	外部研修や社内研修を積極的に受講し、療育スキルの向上を図っていきたい。 職員一人ひとりが専門的な知識や実践的な対応力を身につけ、より質の高い支援が提供できるよう努めていく。
2			
3			